



## 災害時の心構え

1

### 知っておきたい思わぬ危険

#### 《河川・渓流など》



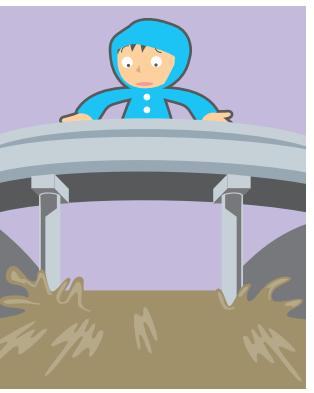
溝などは水の流れが早くなり危険です。



河川上流では、水かさの変化が激しく、中洲に取り残される場合があります。



急な崖の近くでは、水分を含んだ土砂が崩れる可能性があります。

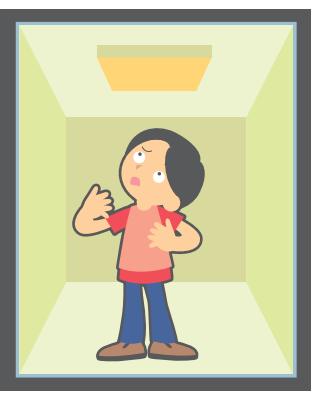


水かさの増した川の橋はとても危険です。

#### 《オフィス街など》



地上が冠水すると、地下室へ一気に水が流れ込んでいます。



浸水すると電灯が消え、エレベーターは使えません。



水圧でドアは開かなくなります。

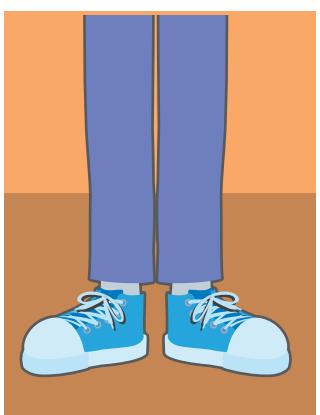


換気口や採光窓など、思わぬところから水が流れ込んでいます。

2

### 洪水からの避難のポイント

洪水災害の威力は計り知れません。避難時の注意点を事前に知ることで被害を最小限に抑えることが可能です。



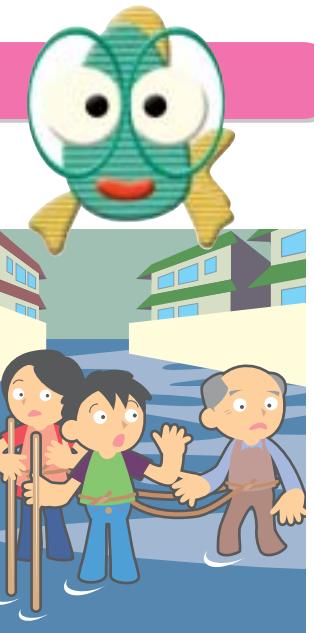
運動靴が最適です。長靴は、浸水が深いと水があり、歩きにくくなります。



歩ける水の深さは膝の高さまでです。流れが早いと20cmの深さでも危険です。



水の中は何かあるのか分かりません。杖などを使って確認しながら進みましょう。



お年寄りや子どもは、はぐれないよう、お互いをロープなどでつないで避難しましょう。

3

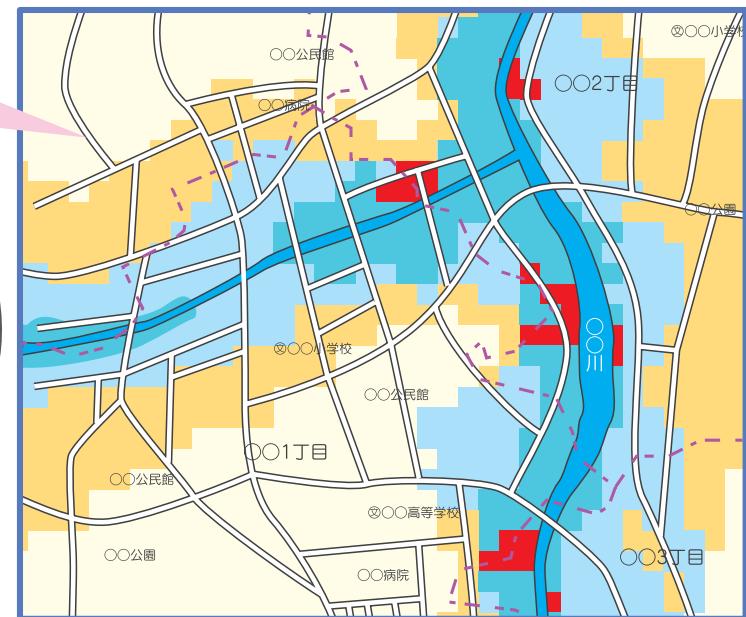
### 災害から身を守るために、日頃からの準備を！

#### 定期的に話し合ってみましょう。

日頃から水害ハザードマップで避難場所の確認など、水害時の準備をしておきましょう。

#### 水害ハザードマップ

万が一の水害時に、地域の住民の方々が安全に避難できる事を主な目的として、想定浸水深・避難所の位置及び一覧、緊急連絡先、避難時の心得等が記載されています。



防災マップや水害ハザードマップは、市役所または役場へお問い合わせ下さい。

#### 防災グッズの準備と定期点検

家族構成を考えながら必要な物がそろっているかチェックしましょう。また、使用期限のあるものは定期的に取り替えましょう。

よしっ  
準備は万全だ!

